

# 専業主夫志向の要因解明調査

下山 由歩

## 要 旨

たまに新聞記事などで、女性は「専業主婦志向が強い」と言われる事があるが、男性について、「専業主夫志向が強い」とはあまり言われない。なお、本論文でいう専業主夫とは、「相手の女性とは婚姻関係または内縁関係にあって、常勤の仕事はもたず、家庭生活を維持する仕事を主に担当する男性」と定義付けている。現代では、「男らしさ」や「女らしさ」が薄れてきているため、主婦業に専念したい女性がいるならば、主夫業に専念したい男性がいてもおかしくないのではないか。今までの調査では、専業主夫志向について調査されていないため、専業主夫になりたいという専業主夫志向の要因について解明することが本論文の目的である。

まず、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という伝統的専業主婦志向は時代がすすむにつれ、変化していることを示す。従来の考え方では、夫が仕事、妻は家事という役割分担が一般的であると考えられていたが、現在の考え方では、そのような役割分担は一般的ではないと考えられている。そのことを示すのが共働き世帯の増加である。妻も仕事をもつようになり、全く仕事をしない専業主婦世帯は減少してきているのである。一方で、仕事よりも家庭を優先したい男性がいることも説明する。仕事優先であるはずの男性が、以前よりも、家庭に目を向けるようになり、男性だからこそ家計を支える一家の大黒柱になるという考えはなくなってきているのではないかということを示す。

また、専業主夫における現状について言及する。そもそも、専業主夫とは何かについて述べた上で、本論文でいうところの専業主夫を定義づける。そして、専業主夫の世帯が実際に増加していることを述べる。また、専業主夫になったきっかけを明らかにするため、専業主夫家庭の事例を、新聞記事、テレビドラマ、インタビューという3点のデータから得た情報をもとに説明する。これらの事をふまえた上で、専業主夫志向の要因について仮説を立てる。専業主夫が増加した要因として、女性の雇用形態が変化したことを挙げる。また、男性の専業主夫志向の要因では、家庭における役割分担の変化により家庭志向が高まるということと、男性の女性化という2点を挙げる。そこで、専業主夫志向の要因の仮説を検証するために質問紙調査をおこなった。その結果、伝統的専業主婦志向に反対であるほど家庭志向が高いという仮説はやや支持されたが、伝統的専業主婦志向に反対であるほど専業主夫志向が高いという仮説は棄却された。また、専業主夫志向と家庭志向は強い相関関係があることがわかり、専業主夫志向が高いほど家庭志向が高いということがわかった。なお、男性の女性化は起きているという仮説は棄却されたが、女性化傾向が強い男性ほど専業主夫志向または家庭志向が高いという仮説は支持されたのである。本研究では、専業主夫志向の要因は、男性の女性化であるということが解明できたのである。